

等云思老夫老婦之意我心無異荒鹽者仍云比沼里荒鹽村亦至丹波里哭木村據槻木哭故云哭木村復至竹野郡船木里奈具村即謂村人等云此處我心成奈具志久古事平善者乃留居此村斯所謂竹野郡奈具社坐豐宇賀能賣命也

〔三代實錄清和〕貞觀五年十一月十七日丙午先是丹後國言細羅國人五十四人來著竹野郡松原村問其來由言語不通文書無解

〔丹州三家物語〕國中之地侍進退之事附細川丹後國主と成事

加佐郡には頭立たる城持八人註有けるが藤孝川細家臣石寺治右衛門を先田部尾安の何がしが許へつかはして宮津より西北四郡治めぬる條加佐郡の各はやく宮津へ出て禮會可有哉と申つかはしたりければ中田部より舟に乗宮津をさして漕行ける

〔細川大心院記〕大心院殿元政ハ高津ニ陣ヲメサレバ澄之ハ牧ト云所ニ宿陣ス澄元ハ丹後國田邊ト云所ニ陣ヲ取ラル

〔田邊府志〕八田村地頭之事

今此處田邊といへる町地はいにしへは八田村といひて野村民家の居せしところなり中長岡藤孝此處に城郭を築き市街をひらき田邊と名づけ給へるを稽見るに昔日田邊小太夫といひて此處の地頭たりしが圓隆寺を信敬ありて諸堂も建立ありしとなりこのゆへに其芳名を久しくつたへめでたき人なれば處の名とせられたりと見へたり

〔丹州三家物語〕細川父子丹後國入來之事

細川父子忠興藤孝の人々天正九年の三月宮津に至り八幡山へ入城せられけるが兼て河守邊より奥宮津までの地侍百姓等細川に隨ひけり

〔丹後國宮津志〕宮津城 古來宮津城ノ名アリト云ヘドモ今ノ地ニ非ズ上宮津ニ城跡アリ八幡